

経営比較分析表（平成28年度決算）

大阪府 高石市

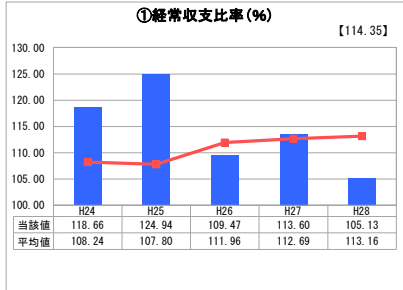
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	72.43	99.99	2,793	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
58,162	11.30	5,147.08
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
58,513	11.77	4,971.37

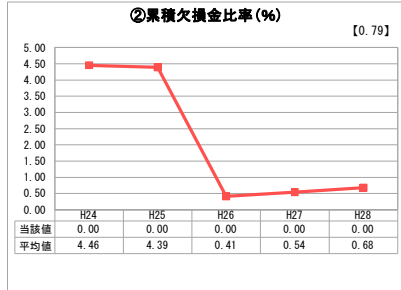
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

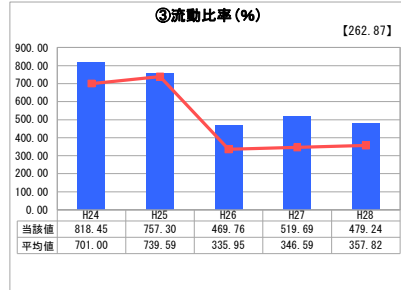
1. 経営の健全性・効率性



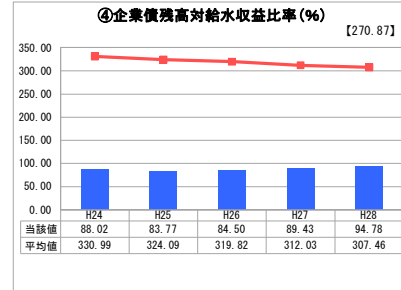
「経常利益」



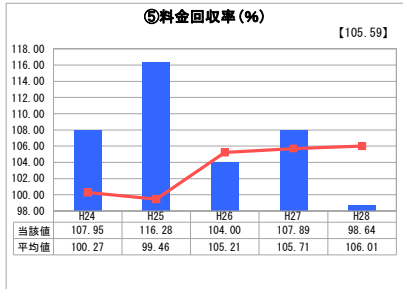
「累積欠損」



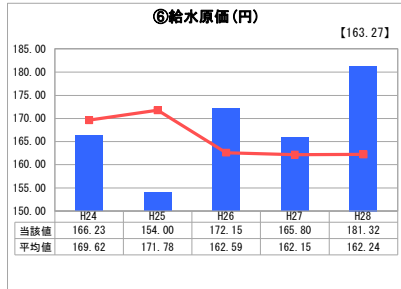
「支払能力」



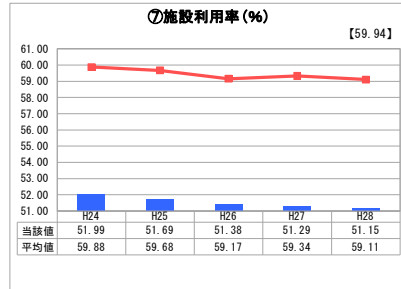
「債務残高」



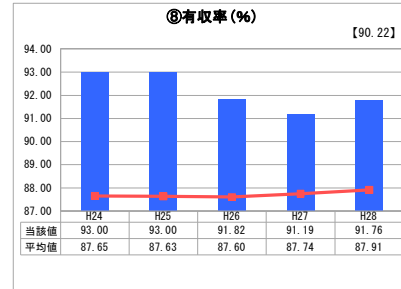
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①の経常収支比率については、人口減少社会による給水人口の減少や、節水機器の普及などにより、給水収益が減少してきております。平成28年度は、請負工事等の増加により、類似団体平均より低い数値となっていますが、事務の効率化やアウトソーシングなどの経営努力により、経常収支の黒字を維持しております。

②の累積欠損比率については、毎年度、未処理欠損金が発生していないことから、0%を維持しています。

③流動比率については、平成28年度は概ね前年度どおりで、短期的な債務に対する支払能力は確保しています。また、④企業債残高対給水収益比率は、平成26年度より老朽管更新工事を進めており増加傾向にありますが、類似団体との比較では低い水準で推移しています。

⑤給水原価については、平成27年度から平成28年度に修繕工事の事業繰越を実施したことにより、平成27年度は低く、平成28年度は高くなっています。給水原価の影響により、⑤料金回収率は平成27年度は高く、平成28年度は低くなっています。

⑦施設利用率については、給水人口が年々減少していることから、平成24年度より毎年減少しています。

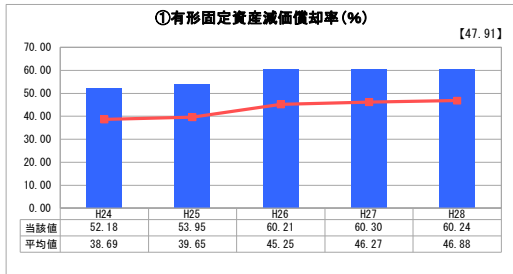
⑧有収率については、漏水調査の実施による漏水の早期発見に努めたことから前年度と比較して改善されました。

2. 老朽化の状況について

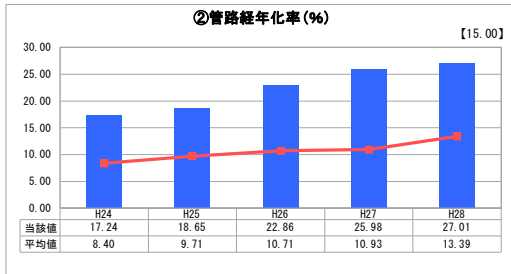
経済の高度成長期に建設した水道管の老朽化が始まり、管路経年化率の経年悪化を引き起こしており、類似団体との比較でも老朽化が進んでいることが伺えます。

将来の安定給水のため老朽管更新事業の基本計画を立て、平成26年度より老朽管更新事業を本格実施し、管路更新率が改善（上昇）しています。

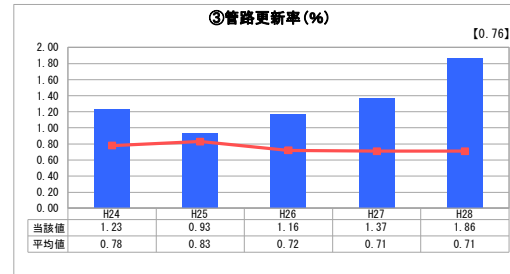
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

平成28年度においても黒字を計上しており、安定した経営を維持していますが、今後、給水人口減少に伴う、料金収益の減少や、老朽管や施設の更新事業に伴う多額の費用の発生が見込まれます。こうした中で、配水場施設の更新については、平成28年度に策定した「高石配水場長寿命化計画」に基づき、施設の長寿命化やダウンサイジングを検討しています。

また、平成28年度に策定した「高石市水道事業ビジョン」により、今後の水道事業の方向性を示しながら、平成30年度には経営戦略を策定し収支バランスの均衡に努めてまいります。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。